

トピロリック® Webセミナー

演題

尿酸と血管内皮機能： キサンチン酸化還元酵素(XOR)の役割

演者

ひがし ゆきひと

東 幸仁 先生

広島大学 原爆放射線医科学研究所
ゲノム障害医学研究センター再生医科学研究部門 教授
広島大学病院 未来医療センター長(併任)

講演の後にQ&Aの時間を設けております。

日時

2022年**2月8日**(火)

①**18:00~18:30** ②**19:00~19:30**

※①②は同じ内容の講演です。ご都合の良い時間でご参加ください。

会場

担当の(株)富士薬品MRにお尋ねください

主催



株式会社**富士薬品**

TPR60167A
2021年12月作成

尿酸と血管内皮機能： キサンチン酸化還元酵素(XOR)の役割

広島大学 原爆放射線医科学研究所 ゲノム障害医学研究センター再生医科学研究部門 教授 **東 幸仁** 先生
広島大学病院 未来医療センター長(併任)

尿酸と高血圧、冠動脈疾患、腎疾患やメタボリック症候群との関連が報告されている。尿酸値は、心血管疾患発症の有用なバイオマーカーであると考えられている。一方で、高尿酸血症自体が心血管疾患発症の独立した危険因子かどうかについては、一定の見解が得られていない。しかし、基礎研究において、高尿酸血症が血管障害・動脈硬化を惹起するいくつかの機序が想定されている。キサンチン酸化還元酵素(XOR)は、細胞内でのプリン体の尿酸への代謝を担うが、血管内皮細胞上に結合していることが知られており、血管内皮細胞に結合するXORから発生した活性酸素の病態への寄与についても注目されている。XORに介入することは、尿酸値を低下させるだけでなく、酸化ストレス抑制、それに伴う炎症の抑制等を介して、血管内皮機能改善に寄与することが期待される。

本セミナーでは、尿酸・XORによる血管内皮機能障害の発症機序と、心腎連関の観点から高尿酸血症の治療意義について考察する。

演者ご紹介

ひがし ゆきひと

東 幸仁 先生

広島大学 原爆放射線医科学研究所 ゲノム障害医学研究センター再生医科学研究部門 教授
広島大学病院 未来医療センター長(併任)



昭和63年 3月 広島大学医学部 医学科 卒業
昭和63年 4月 広島大学医学部附属病院 内科医員(研修医)
平成 2年 4月 総合病院福島生協病院 循環器内科医師
平成 5年 4月 広島大学医学部附属病院 第一内科医員
平成 8年12月 医学博士
平成13年 4月 American Heart Association Fellowship(アイオワ大学: Allyn Mark教授)
平成14年 7月 広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 心臓血管生理医学 助手
平成16年 5月 広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 心臓血管生理医学 講師
平成18年 4月 広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 心臓血管生理医学 助教授
平成19年 4月 広島大学 大学院医歯薬学総合研究科 心臓血管生理医学 准教授
平成21年 4月 広島大学病院 再生医療部 部長(併任)
平成23年 8月 広島大学 原爆放射線医科学研究所 ゲノム障害医学研究センター再生医科学部門 教授
平成24年 4月 広島大学 原爆放射線医科学研究所 ゲノム障害医学研究センター長
平成25年 9月 広島大学病院 未来医療センター長(併任)

【所属学会等】 評議員: 米国心臓病協会、米国心臓病協会高血圧評議会、日本循環器学会、日本高血圧学会、
日本脈管学会、日本動脈硬化学会、日本血管生物医学会、日本抗加齢学会 等
理 事: 日本血管不全学会、日本NO学会、脳血管・認知症学会、日本性機能学会、日本心脈管作動物質学会